

歴史散歩

れきしさんぽ No.44

ばいりんじ ありまけたまや
梅林寺 有馬家霊屋



ばいりんいんたまや
梅林院霊屋（南から）

慶長8（1603）年、江戸幕府が開かれると、戦国の世は終焉に向かいます。久留米市を含む筑後国には、関ヶ原の戦いで石田三成を捕らえるなどの功を上げた、田中吉政が領主として入国します。しかし、田中氏が筑後国を治めたのはわずかに20年間で、2代忠政に跡継ぎがいなかったため、改易されてしまいます。その後、筑後国北部分の領主として入国したのが有馬豊氏です。有馬氏は、元和7（1621）年の豊氏入国以降、明治維新まで久留米藩の領主としてあり続け、久留米城を居城としていました。

歴代の藩主や一族は、久留米城の南西に位置する江南山梅林寺と江戸の広尾にある瑞泉山祥雲寺を菩提寺とし、国元の久留米で亡くなった際には梅林寺、江戸で亡くなった際には祥雲寺に葬られました。梅林寺には、藩祖頼則以降の歴代藩主の霊廟や石塔、一族や家臣たちの石塔などが残されており、有馬家墓所として静かな佇まいを呈しています。中でも、納塔廟2棟と位牌廟3棟は、江戸時代前期の建造物で、歴史的価値の高さから、平成30（2018）年12月に『有馬家霊屋』として国の重要文化財に指定されました。

梅林寺と有馬家墓所

江南山梅林寺は、JR久留米駅の北側、久留米市京町に所在します。臨済宗妙心寺派に属し、元和7

(1621)年に久留米藩主有馬家の初代豊氏が丹波(現在の京都府北西部)福知山から転封されるのに伴い、同地の瑞巖寺を移したものです。当初は大龍寺と称しましたが、寛永7(1630)年に豊氏の父である則頼の墓を、播磨国(現在の兵庫県南西部)三木郡天正寺より移設し、霊廟を建立した際に、その法名の梅林院殿から名付けられました。

梅林寺には、初代豊氏、2代忠頼、7代頼僮、10代頼永の4名が埋葬されています。歴代藩主の墓所は、梅林寺伽藍北側の小高い丘の上に所在し、2棟の納塔廟と3棟の位牌廟からなる5棟の霊屋、7基の藩主三重石塔などが残されています。



江南山梅林寺遠景(北西上空から)

江戸時代の有馬家霊屋



『江南山図』(梅林寺所蔵)に描かれた有馬家霊屋

有馬家霊屋は、寛永7(1630)年に藩祖則頼の墓を移設した後、初代豊氏、2代忠頼、豊氏室の埋葬に際して承応4(1655)年頃にかけて建立されました。3代藩主以降は霊屋の建設は中止され、三重石塔が建立されるようになります。有馬家墓所内には歴代藩主の子息、歿した家臣の層塔や五輪塔から構成されています。

18世紀中頃に描かれた『江南山図』には、霊屋が建ち並んだ様子とともに、今は失われた唐門や土塀が設けられています。『弘化三年「手鑑」』には「梅林寺霊屋番」が配置されていたことが記されていて、日常的に管理されていたことが窺えます。

有馬家の藩主たち



初代藩主 有馬豊氏肖像(篠山神社蔵)

久留米藩主としての大名有馬家は、初代豊氏が元和7(1621)年に21万石の領主として入封して以降、11代頼咸の代に明治維新を迎えるまで、約250年間続きました。

藩祖	則頼(のりより)	5代	頼旨(よりむね)	10代	頼永(よりとお)
初代	豊氏(とようじ)	6代	則維(よりふき)	11代	頼咸(よりしげ)
2代	忠頼(ただより)	7代	頼僮(よりゆき)		
3代	頼利(よりとし)	8代	頼貴(よりのたか)		
4代	頼元(よりのもと)	9代	頼徳(よりのり)		

※太字で記した藩主が梅林寺に埋葬されています。

ばいりん いん たまや
梅林院霊屋

有馬家霊屋は、小高い丘の下段に墓石である五輪塔を納めた納塔廟2棟と、丘の上段に位牌を納めた位牌廟3棟から構成されます。

梅林院霊屋は、丘の下段に造られた納塔廟で、花崗岩の切石基壇上かこうがん きりいし きだんに、入母屋造で本瓦葺の覆屋いりも やづくり ほんがわらぶき おおいが建立されています。内部には藩祖則頼しつ むすめ あんち（梅林院）と則頼室、則頼女の五輪塔が安置されています。前面に配置されている石燈籠いしとうろうに刻まれた銘文から、寛永7（1630）年に建立されたことが分かります。伝統的な和様三間仏堂で、17世紀前期の建築様式の特徴を示しています。



梅林院霊屋と春林院霊屋（南西から）

しゅんりん いん たまや
春林院霊屋



春林院霊屋の内部に安置されている五輪塔

春林院霊屋は、墓所の南東部に位置し、梅林院霊屋の北東側に建立されています。前面に配置されている石燈籠には、寛永20（1643）年9月30日の建立と刻まれており、豊氏（春林院）の埋葬を契機けいきに建てられたものと考えられます。

梅林院霊屋とは屋根構造が異なり、宝形造となっているのが特徴です。花崗岩の切石基壇上に建立された本瓦葺の建物で、内部には豊氏と豊氏室ちようじゆいん（長壽院）、忠頼けいりんいん（瓊林院）、頼旨の五輪塔が安置されています。正面向かって右手に配置されている豊氏の五輪塔は一回り大きく、台座には建立にいたる経緯けいゐが記されています。

しゅんりん いん い はいびよう
春林院位牌廟

有馬家霊屋を構成する3棟の位牌廟は、丘の上段に建てられています。豊氏の位牌おさを納めた春林院位牌廟は、位牌廟の中央に位置し、石燈籠に刻まれた銘文から春林院霊屋と同じ寛永20（1643）年に建てられたと思われます。現在は入母屋造の建物ですが、18世紀中頃に描かれた「江南山図」には、宝形造の屋根が描かれており、後世に改修されたものと考えられます。内部には、金箔押しきんぱく、漆塗りうるしぬで彩色が施された寛永期の宮殿ほどこが安置されており、豊氏の位牌を納めた厨子ずし まつが祀られています。



春林院位牌廟（南から）



春林院位牌廟内の宮殿

ちょうじゆいん いはいびょう
長壽院位牌廟

長壽院位牌廟は、丘の上段の春林院位牌廟の東側に隣接して建立されています。

長壽院は初代豊氏の正室で、徳川家康の養女連姫です。連姫の亡くなった承応元（1652）年の建立と考えられます。花崗岩の切石基壇上に入母屋造の建物が建っていますが、春林院位牌廟と同じく、元来は宝形造の建物と思われます。内部には、宮殿と9代頼徳室で一橋徳川家3代徳川斉敦女の智光院を祀った石塔が安置されています。位牌廟の扉や鬼瓦には三つ葉葵文があらわれており、徳川家関係者の霊廟であることが分かります。



長壽院宮殿と智光院石塔

けいりんいん いはいびょう
瓊林院位牌廟

瓊林院位牌廟は、有馬家霊屋の中で最後に建立されました。2代忠頼の位牌を祀った建物で、燈籠銘から承応4（1655）年頃に建立されたと思われます。屋根構造は入母屋造りですが、他の位牌廟と同じく、宝形造の建物が改修されています。内部には、長壽院位牌廟と同じように、春林院位牌廟の宮殿を詳細に模倣した宮殿が安置されています。大名有馬家では、この瓊林院位牌廟の後には霊廟が建立されることはなく、その後の藩主たちの供養には、3重石塔が建立されていくことになります。

江戸時代を通して、全国には概ね 300程度のおおむの藩がありました。その領主であった大名の墓所のうち、霊廟を伴うものは30箇所程度しかありません。そのうち、5棟以上の霊屋が現存する大名墓は、上杉家や本多家、細川家など極端に少なく、有馬家霊屋の希少性が窺えます。さらに、祀られた人物や建立年代が判明し、形態が墓塔の霊屋→位牌の霊屋→三重石塔へと変化する過程が確認できることも重要です。

有馬家霊屋は修行道場である梅林寺の境内、墓所の一角にあります。見学は節度をもってお願い致します。



梅林寺 有馬家霊屋配置図